

目次

街道と旅

西沢武彦

7

展示解説

19

付 読下し文

50

展示目録・その他

56

開館二周年を迎えて

長野市長 柳 原 正 之

長野市民の中から博物館への希望が高まり、市としてこれに対応したのは今から十年前のことでした。次々に実現した社会教育の施設のうち、特に博物館については長い準備期間と、多くの識者・市民の御意見をうかがい、十分な研究の時を経て、ようやく開館いたしました。以来二年間、長野市民はじめ二十万人を越す方々の御来館をいただき、皆様の豊かな知識をいっそうみがかれましたことは御同慶にたえません。

開館当初、近隣に例を見ない総合博物館ということで、市民文化の創造を目ざした館の開設の趣旨に、各方面から多くの御期待をいただき、これにおこたえすべく博物館としての教育活動を盛んにするとともに、研究機関の拡充につとめてまいりました。

この間、館の建造物は全国規模の評価を賜り、さらに、国の財宝とも言える重要文化財の館内での展示も承認され、今回若槻山千寺の銅造観音菩薩立像の特別展示が実現できたことは、館の将来に期する意味から喜びにたえません。

豊かで住み良い郷土づくりを進めている長野市の市民文化の殿堂として、長野市立博物館をよりいっそう活用され育ててくださることを祈念してやみません。

街道と旅について

長野市立博物館長 掛川 一夫

開館二周年を記念して、ここに六回目の特別展「街道と旅」を開催します。この二年間民俗・歴史・考古の各分野にわたり、常設展示の内容をより深めるために特別企画の展覧会を催してきました。今回は、その趣をいっそう意義あらしめるため、民俗的な資料を中心に、街道と旅の歴史を見ていただくものです。

旅は自分の世界から他所の世界へ行くことで、人と自然とのかかわりと、人と人との交流を通じて、生きるための多くの情報と物を得ることだといわれます。私たちの祖先も、人生の旅を通じて人間の生命を守り、文化を育て伝えてきました。

そして、その文化を守るために、人々は集団で道をつくり、より遠くの道を求めて、ある時は争いある時は協力して来ました。旅や物資輸送のための施設が整備され、多くの人が往来する街道には、その時代を象徴するような光景が行き交います。江戸時代の大名行列は、江戸と国元との間を封建社会の権力者の威容を誇示しながら進みました。そして、商用や寺社もうでなどに街道を行き来する町や村の人たちの力も加わって、新しい時代への文化とこれに対応できる経済構造がつくり出されていきました。

この展覧会を通じ、街道が果たした歴史上の意義を深く理解され、将来を展望されることを期待します。